

北海道旭川農業高等学校森林科学科森林資源活用班 大向凜空 谷 透生
 狗飼海斗 鈴木皓大

研究の背景・目的

『地域の子どもたちに林業・林産業のことをもっと知ってもらいたい』と11年前に木育活動を始めました。しかし昨年はコロナウイルスにより、ほとんどの木育交流が中止となりました。そこで、先が見通せず地域の子供たちと触れ合うこともできないコロナ時代だからこそ、「木や森林の魅力を伝えるための新たな方法」を検討し、実施していくことを考えました。

今年度テーマを「コロナ禍でも木や森林の魅力を伝えたい！」とし、活動目標 1. 安心・安全なスロープトイの体験方法の確立。2. 安心・安全な対面式活動の計画と実施。3. 新たな伝達方法の検討。一年間を通してコロナ対策をしっかりと行い実施していくことにしました。

対面式	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
対面式															
展示体験															
ワークショップ															
SNS															
まとめ															

研究の内容

実践1 安全なスロープトイ体験

北海道立旭川美術館から、令和3年1月から実施する「木と遊び美術館」へ出品してほしいという依頼がありました。この展示会のテーマは「あそび」展示物を目で見るだけでなく、実際に手で触れられる作品を設置したいという美術館と、木の魅力を幅広い人に伝えたいという私達の意図が合致。



そこでスロープトイを安全に使ってもらうため次の3項目を立て、これを関係機関にも協力してもらいました。①来場者のアルコールによる手指消毒の徹底。②木球は除菌ができ乾燥も早い無垢のものを使用。③使用後は本体を含め速やかに消毒を行う。このことを守りスロープトイ4台を3ヶ月間展示、約3,000人の市民に体験してもらいました。



実践2 対面式木育活動の計画と実施

私達の木育活動は、対面で行うことを基本としているため次の4項目を遵守することにしました。

- ①日頃の健康観察に加え当日の体調で参加可否決定。
- ②活動時は常時マスク着用、随時手洗い消毒徹底。
- ③活動は屋外を基本とし、屋内の場合は適時換気。
- ④長時間の活動は避け、必要以上の接触を防ぐ。

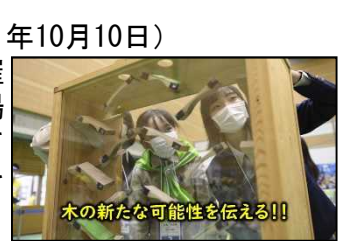


(1) 美術館ワークショップ (令和3年2月27日) 参加者に手作り木琴を作り、そこに絵を描いてもらうワークショップを計画。当日は子供~大人まで約40名が参加。参加者は木琴作りから色塗りまで1時間をかけて世界に一つの木琴を完成させました。



(2) 幼稚園木育交流 (令和3年7、10、12月)

4つの対策に加え、園児と班員をさらに2グループに分け三密を避けました。10月の交流では、外で落葉遊び、室内でお面作りの2展開で実施。



(3) 全国育樹祭 (令和3年10月10日)

北海道で33年ぶりに開催された全国育樹祭では来場者にスロープトイへ触れてもらい木の新たな可能性を伝えました。



実践3 新たな伝達方法の検討

旭川市は2019年ユネスコデザイン創造都市への認定されました。そこで私達高校生が先生となり地域の子ども達を対象とした「まちなかキャンパス」を開く予定でしたがコロナ感染状況を受けオンライン開催に変更。スロープトイ紹介動画を生配信することができイベントとして実施できました。



研究成果

対面活動は事前準備をしっかり行い、細心の注意を払えば充分安全な活動が実施可能であること。またSNSでの情報公開はその場になくとも聴覚などの五感に訴えることができ、更なる可能性を認識できました。



今後の展開

今年度培ってきた安心・安全なワークショップのノウハウを活かし、これからも地域を担う子ども達に「森林や木」の持つ持続可能性や魅力を伝えていきます！！

